

## 第 34 回日本臨床工学技士会

### 【演題名】VA 管理におけるタスクシフト・シェアの取り組み

#### ① 今回の学会・研修の内容

今回の第 34 回日本臨床工学技士会の学会のテーマは「臨床工学の更なる極みへ～知識・技術のシンカ～」です。各施設、タスクシフト・シェアの取り組みがメインとなり新しい追加業務への報告が多くなっていました。これから臨床工学技士として「シンカ」が求められていると感じました。また北陸新幹線が福井県敦賀まで延伸され福井駅周辺も活気があり新しい街並みに「シンカ」されていると思いました。

#### ② 今回の学会に参加した感想や印象に残った発表

全体的に CE によるタスクシフト・シェアへの取り組みの発表が多かったと思います。

特に手術室に関係するものが多く、スコープオペレーター業務や麻酔補助業務に取り組んでいる施設が多いと感じました。当院もスコープオペレーター業務を始めたので非常に参考になりました。総合病院で働く CE として手術室への介入はこれから更に増えていくものだと思います。手術室の機器管理、スコープオペレーター業務、これから当院で始まる手術支援ロボットの管理業務を頑張りたいと思います。

津田沼中央総合病院 主任 林 伸哉 東京電子専門学校出身



# VA管理におけるタスクシフト・シェアの取り組み

## I. 研究目的

近年、平均透析導入年齢は70.4歳と高齢化が進んでおり、高齢においては心血管系の衰退だけでなく、サルコペニア、フレイルといった全身的な問題を抱えている。バスキュラーアクセス (VA) の作成及び管理がより困難になり超音波画像診断装置の必要性が増している。

## II. 研究方法

当院では早期よりエコーガイド穿刺は取入れられていたが、VAエコーは臨床検査技師または医師により行っていた。VA管理が不十分な状態が継続しており、スタッフのVAに関する知識も不十分であった。2021年よりタスクシフト・シェアに伴う臨床工学技士 (CE) の業務検討において、現行制度上でVAエコー検査の施行が認められた。それに伴い2022年度よりCE 2名による透析センターでのVAエコー業務が開始された。1. エコーガイド穿刺やVAエコーの教育 2. VAカンファレンス 3. 定期VAエコー検査 4. VA不全の早期発見がVAチームの内容となる。

## III. 結果

定期VAエコー検査では2021年度の検査室での件数138件より2022年度の透析センターでの件数は143件と多くできたが2023年度は93件と大幅に下がってしまった。

## IV. 考察

検査数が下がってしまった要因としてはスタッフのやる気、エコー台数の制限、業務拡大によるスタッフ不足などが考えられた。改善案として2024年度に新しいエコーが導入となりVAチームもやる気があるスタッフへと変更になった。

## V. 結論

VA管理をする上では環境を整える必要があり、VAチームを中心にスタッフ全員で取り組んでいきたい。

## 引用文献